

持経宿・平治宿の巡回整備

◇実施日…2016年3月13日(日)

◇参加者…川島功、沖崎吉信、生熊敏男、生熊千満子、児嶋道夫、

畑林秀味、畑林清子、高階美根子、山口泰宏、

青木宏充、梶野照雄、瀧本昭太郎、中川治平、

濱野兼吉、下ノ坊善曼。

計15名。

今回は越路のローソンにて合流。川島さんの車には中川、児嶋、畑林秀味さん。沖崎さんの新車三菱デリカには生熊さん夫妻、畑林清子と濱野が加わり出発。途中旧九重小学校にて篠尾から参加の区長・下ノ坊さんに乗せ集合場所の下北山池原公園へ。

既に尾鷲からの高階、山口、和歌山市からの瀧本、大阪からの青木さんから到着。川島代表の挨拶と下ノ坊さんの紹介をして、青木さんの車に加わり、3台の車に分乗して池郷林道を持経宿小屋に向け出発。途中石ヤ塔の手前・尾根三叉路手前に大きな落石がありバールで道路脇に転がし、玄翁で打つが割れず放置する。

持参のジョレンで小さな落石を除去しながら進み、持経宿小屋へ。

持経宿小屋で改めて川島代表から本日の作業は、春からの登山のシーズンを控え、小屋の雨水槽の設置、水場の点検等であると説明。自己紹介のあと行者堂にて生熊敏男導師による安全作業の勤行。女性陣は千年檜祠に供える深山栴を採るため先発。

男はそれぞれ平治宿小屋で使用する薪や、チェーンソーを担ぎ後続く。青木さんは後から登って来て電灯配線して下さる梶野さんと小屋の整理や水場点検で持経宿小屋に残る。

千年檜祠での勤行は帰りに行くこととなり、全員平治宿に向け出発。



落石をバールで除ける



千年檜祠にて



もう直ぐ小休止!

沖崎さんは最後尾で下ノ坊さんに大峯奥駈道の説明や山彦の活動を紹介しながら続く、風もなく冬枯れの樹幹からは雲は高いが天気の変わるのがわかる空模様である。

持経宿から平治宿にかけての奥駈道の魅力は、ミズナラ、ブナに代表される巨樹の中にツガ等樹齢の数百年の樹々が混在していることである。昨年我々が登ったシリベシ山(羊蹄山)の原生林を遙かに凌ぐ、素晴らしい樹層である。ここは芽吹き、新緑、紅葉、冬枯れの四季折々の情景を楽しませてくれる。

平治宿到着後、あらためて川島代表より平治宿での作業の指示と、平治の宿に着いての説明があり、平治宿は高貴な場所であり、持経宿とちがってここは古代中世からの由緒ある宿地である。昭和三十一年に三井寺が三間四方の立掛け小屋を建て、平成三年に我が山彦ぐるーぷが小屋を新築、この時に九百年前の北宋銭が見つかり、小屋の下にはこの古銭と一緒にカメラや水晶玉などがタイムカプセルに入れ埋められているとのこと。

平治の宿はかつて「三胡宿」と呼ばれ、西行の歌碑には「へいち」と記されているので、西行が泊まった頃にはもう「平治」となっていたのであろうと、森沢義信さんが「七十五摩」で記して

いる。
 屋根に落葉を落す、おい被さる雑木の伐採、雨水貯槽の設置、手動式水洗便所ドラム缶の設置、小屋内の清掃、水場の点検、薪作り等それぞれグループに別れて作業を開始する。



トイレのドラム缶運ぶ おい被さる雑木伐採 水場鉄樋の底浚え

私と中川、畑林秀さんの三人は水場の点検に下る。水場へのルートも随分荒れていて、足元悪く注意して歩かないと危険である。水場には十分水が流れているが、貯水槽の縁のコンクリートが一部欠けている。昨年末に速乾性のコンクリートで固めた所はうまくくっついていないが、上からの流れが変わったのか流入する場所が年末に来た時より移動しているが、水槽への流入には影響はない。流れ込んだ土砂を中川さんはスコップで、私達は片手鍋や素手で土砂を取り除く。水は冷たく指がかじかみ痛い。畑林さんは半袖姿で奮闘する。最後にミミズの死骸を取り出し作業を終える。作業の様子は山口さんから借りたカメラで写す。

切り倒された雑木はチェンソーで薪用サイズに小切り、軒下の薪置き場に積みこむ。大勢の参加で作業は順調よく捗り、昼食となる。

小屋の中はストーブが燃え温かい。昼食後お菓子や果物の差し入れがあり和やかな一時となる。備え付けのノートには湯川さん

が持経から俱利伽羅岳を往復したと記されているだけで、年末からの宿泊者はなかったようである。午後からは作業も終わり小屋をバックに記念撮影。帰る準備にかかるが一番大事な雨水槽の設置を忘れていて、あわてて雨水槽を出し、屋根からトユを掛けビニールパイプを繋ぎ雨水槽に水が貯まるよう設置する。



平治宿・昼食歓談 平治宿作業完了！ 千年檜手前鞍部で伐採

千年檜祠に戻り生熊導師の勤行。持経宿の小屋に戻ると青木、梶野組の作業も終了し、小屋は点灯されている。畑林さんの差し入れの洋菓子、児嶋さんのコーヒーで談笑する。児嶋さんは小屋の棚の補強を平治宿に出発前にしていたとのことで、本日の作業は終了。



行仙宿・本日の作業者 下山前 池原公園で解散

最後に持経宿小屋前で記念写真を撮り、池郷林道を途中の石ヤ塔まで下り、展望所で対岸に聳え立つ絶景の石柱を眺め、池峰公園にて解散。

新宮組は九重のカフェで下ノ坊さんに御馳走になる。下ノ坊さんは、かつて林業が盛んであった頃十津川的林業家の番頭として活躍し、仕事は忙しく大変であったが、誇りを持って働ける良い時代であったと話された。

川島さんより行事報告は、今後出来る限り偏らず、多くの方に報告して下さる様にしたい。前代表の玉岡さんが山彦文学賞云々の話が出たが、同じ山行記でも人それぞれの見方があり、文章の個性も出て興味深いと思う。上手下手よりもそれぞれの視点で山を見た立体的な山行記ができるのではと、非常に興味深い。山の文化や歴史、生活、風俗、風習等多面的に山を知ることにも必要だろう。今回は下ノ坊さんの体験談や瀧本さんの大峰・山上ヶ岳の女人禁制についての情報等大変参考になった。

行動タイム

新宮 7:00→8:05 池原 8:15→9:05 持経宿 9:15→10:25 平治宿→作業→11:40 昼食 12:25→(作業)平治宿 12:45→13:35 千年檜→13:45 平治宿 14:25→15:05 池原 15:15 解散。

(記 濱野)